年ごあ

日本万引防止システム協会会長代行



の状況ですが、わが国の さて、最近の万引犯罪

刑法犯認知件数が、ピー

実際、各小売業界(ド

を招きます。

業経営に大変深刻な事態

経済的損失」となり、企

取り組んで参ります。

クの平成14年に比べ半減

する中で、万引犯罪の減

ラッグストアなど)の不

するために、袋に入れて

グのボタン電池等を破棄

ンターで万引き防止用タ

昨年末、大手ホームセ

および関連装置を上市す

て日本国内にEAS機器

明ロス率の調査データを 拝見すると、ロス率が悪 保管しているものが発火 するという報道がありま

> 2. 安全性確認について 等を遵守すること。 らに関連する政令、省令 気用品安全法およびこれ る者は、特に電波法と電

のお蔭で、昨年2月にE

は、 EAS 事業者は、 E

イジス社の調査では不明 化傾向にあり、さらにエ

知件数の11・8%、検挙

少傾向は弱く全刑法犯認

者の3人に1人を占める

した。

当協会としては、同様

なことがお客様店舗で発

EAS機器については、

心臓ペースメーカー等医 療機器との影響調査を行

> なり、中小企業等経営強 済産業省指定の工業会と AS及び防犯カメラの経

目指す唯一のソリューシ

と。EAS事業者は、 い、安全性を確認するこ 明を行うなかで、安全な 化法の生産性向上要件証

23年に日本万引防止シス して設立、その後、平成 日本EAS機器協議会と

少年の犯罪を上回る高齢

またその特性として、

企業も相当数存在しま

生しないように注意喚起

ロスが1%を超えている

当協会は、平成14年に

に至っています。

体ばく露と人体防護の観 点から、電磁波防護指針

> 促進に従来以上に貢献で 防犯システム導入の普及

ならびにICNIRPガ きるようになりました。

3. IP対応機器につい イドラインを遵守するこ TY SHOW 201 この3月のSECURI 9では、3年ぶりに協会

ては、セキュリティ対策 (ウイスル対策、パスワ

関連に従事するあらゆる もと、万引防止システム

より、「安全・安心」が脅

注力し、同時に、「全国万

用法の確立」になお一層

防犯画像の効果的な利

これらの事案の増加に

つつ、会員各社の協力の のご指導・ご支援を賜り はじめ関連諸団体の皆様 までの17年間、関係省庁 日に至っています。これ テム協会に名称変更し今

ます。

悪質化が目立ってきてい

集団窃盗対策に有効な

Sステッカー貼付ガイ

種セミナーの開催、「EA け、 JEAS 講習会や各

ドライン」の明確化をな

っております。

なる普及促進」と共に、

高額被害事案の増加な 題化や組織的万引による 者による犯罪の社会的問

の軽減の為に、当協会は

合的な安全性の向上にむ

た。さらに業界全体の総 文を会員に通達しまし

この甚大な経済的損失

万引防止システムの更

の産業団体に成長してお 企業が参画する万引防止

にとって「極めて大きな

ある防犯体制の充実」に を強め「広域で一体感の 引犯罪防止機構」と連携

S事業者という)であっ

こと。個人情報やプライ

び輸入事業者(以下EA

EAS機器製造業者およ

法の遵守としては、

被害額の大きさは小売業 かされると同時に、その

ードなど)の推進を図る

ブースの出展を行うと共

ります。

ーションステージでは、 に、セキュリティソリュ 一般財団法人日本情報経

15分勉強会やJEASフ ェイスブック/メールな に配布を行うこと。 行し会員を通じてお客様 これらの遵守のために しい理解の普及に努める の商業利用についての正 のセミナーを行い、画像 所存です。 来場の皆様には「顔」

ラや画像認識システムの

安全利用のお勧め」を発

う今一番ホットなテーマ

活用のために「防犯カメ

心!カメラ画像利活用ガ 派遣いただき、「知って安

イドブック2・0」とい

バー保護と防犯情報の利

どを通じ、安全対策に関 する情報共有を図ってお これらのたゆまぬ努力 システム利用ガイド」や 像を利用した来店客検知

ります。

予定です。 ンへの道2」を進呈する 冊子「ロスプリベンショ

協会は、万引犯罪撲滅を 日本万引防止システム

の推進を通じて、流通業 罪をさせない店舗作り」 ョン団体として、「万引犯

業的、社会的役割を果た 少年の非行防止という産 界の健全な経営、また青

ただきながら活動して参 関連諸団体のご支援をい

すべく、所轄官庁はじめ

引き続きご支援ご協力

のほどよろしくお願い申

済社会推進協会より講師

し上げます。